

吾妻山の火山活動解説資料

仙 台 管 区 気 象 台
地域火山監視・警報センター

＜火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）を継続＞

本日（22 日）、陸上自衛隊東北方面隊の協力により実施した上空からの観測では、前回（9 月 19 日）の上空からの観測と比較して大穴火口北西の地熱域の拡大や新たな噴気が認められる等熱活動が継続していることを確認しました。

【防災上の警戒事項等】

大穴火口から概ね 1.5km の範囲では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

また、大穴火口の風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石、火山ガスに注意してください。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 1～図 4）

本日（22 日）、陸上自衛隊東北方面隊の協力により実施した上空からの観測では、前回（9 月 19 日）の上空からの観測と比較して大穴火口北西の地熱域の拡大や新たな噴気が認められる等熱活動が継続していることを確認しました。その他の大穴火口周辺の地熱域及び大穴火口の噴気に特段の変化は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図 5、図 6）

昨日（21 日）11 時 14 分に火山性微動が発生しました。吾妻小富士東観測点（大穴火口の東南東約 2km）での最大振幅（上下成分）は $2.3 \mu\text{m/s}$ 、継続時間は約 51 分 10 秒で、観測開始以降、最も長いものでした。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院、東北大学のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50m メッシュ（標高）」及び「電子地形図（タイル）」を使用しています（承認番号：平 29 情使、第 798 号）。

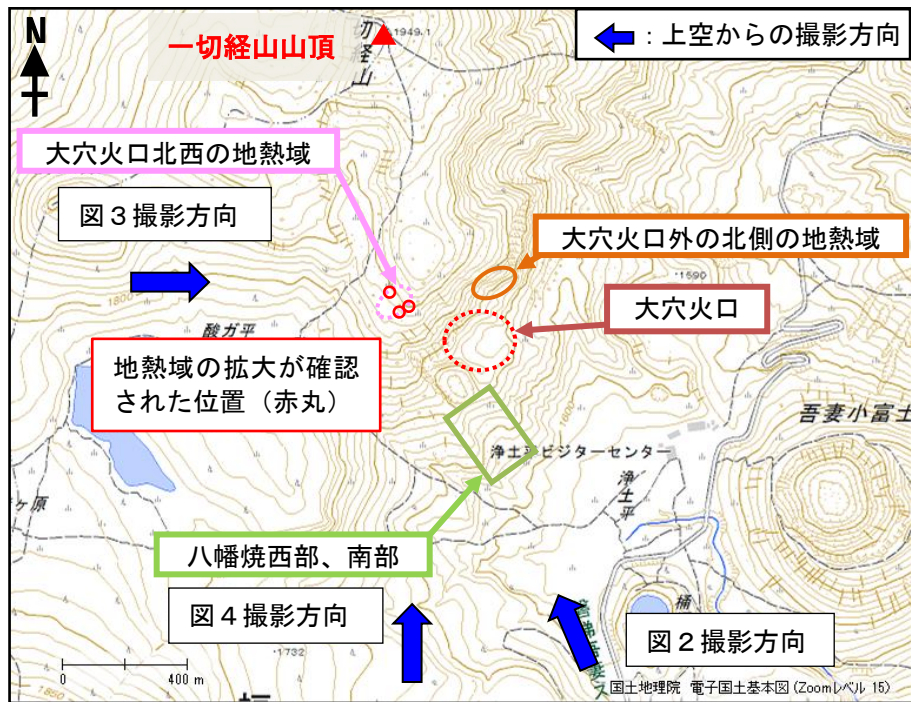


図 1 吾妻山 大穴火口付近の噴気と地熱域の分布及び写真と地表面温度分布¹⁾ 撮影方向

- 1) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

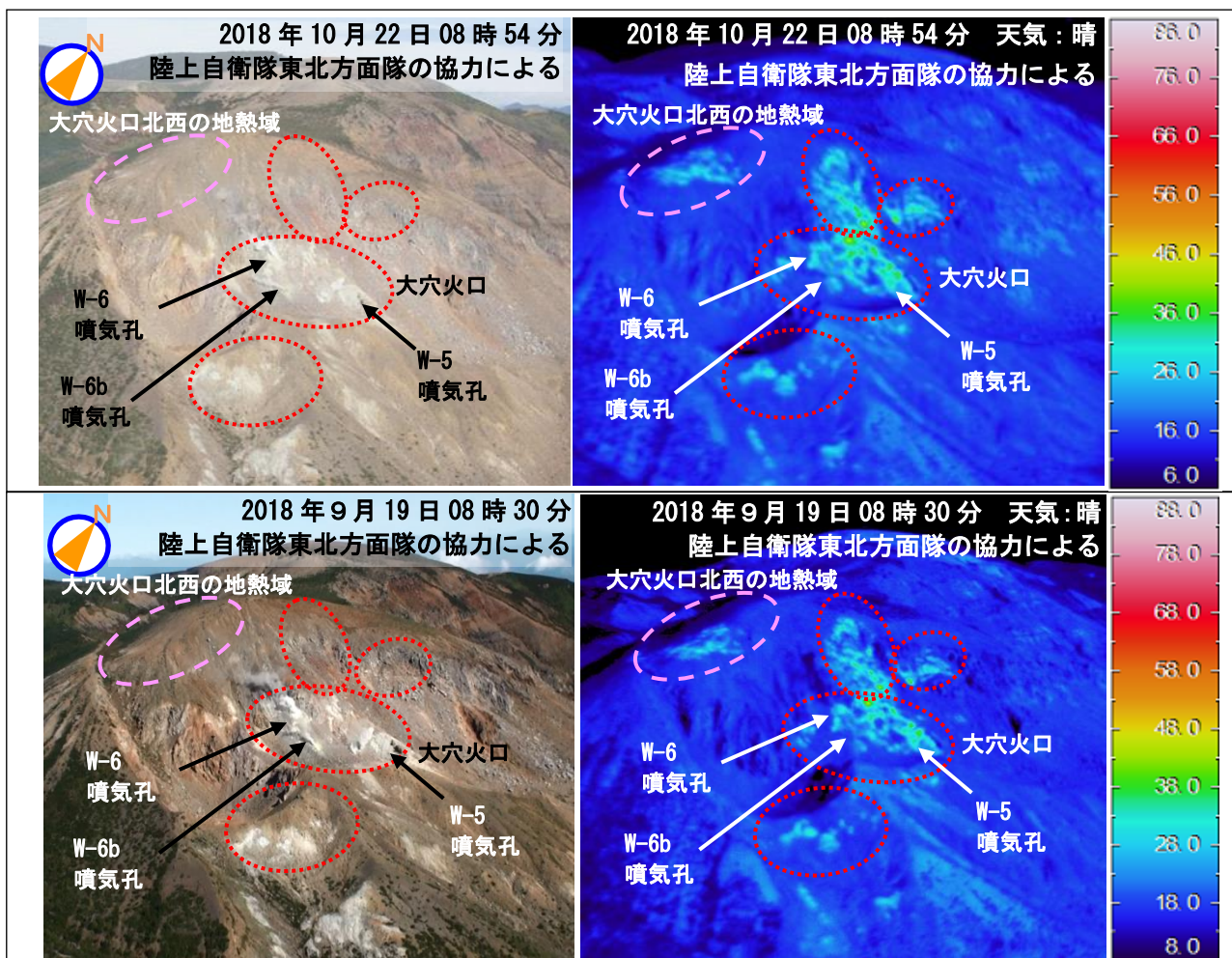


図 2 吾妻山 上空から撮影した大穴火口及びその周辺の状況と地表面温度分布

- ・大穴火口北西（桃破線）で地熱域の拡大が認められました。
- ・大穴火口とその他の地熱域（赤破線）に特段の変化は認められませんでした。

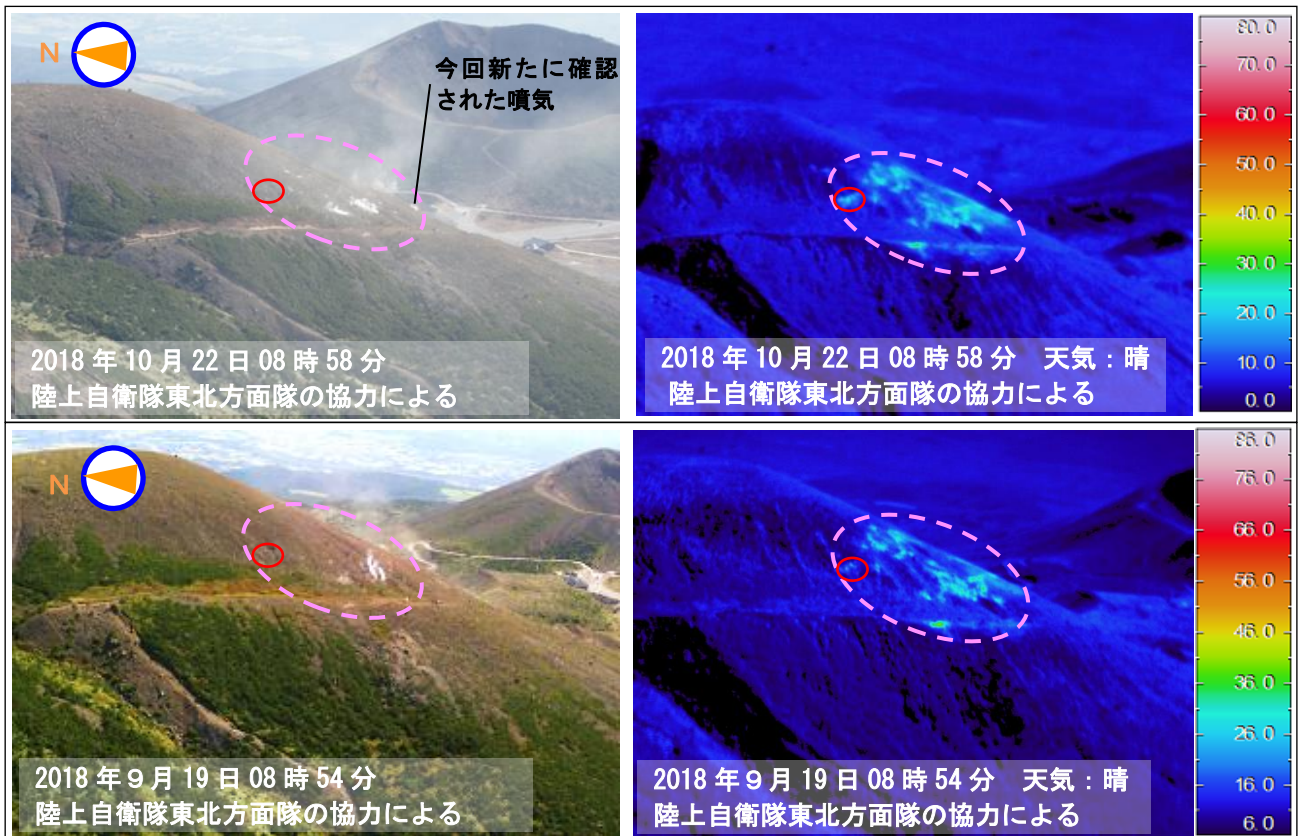


図 3 吾妻山 上空西側から撮影した大穴火口北西の状況と地表面温度分布

- ・ 前回（9 月 19 日）と比較して、大穴火口北西の地熱域に拡大（赤丸）が認められました。
- ・ 今回の観測で、大穴火口北西の地熱域で新たな噴気を観測しました。

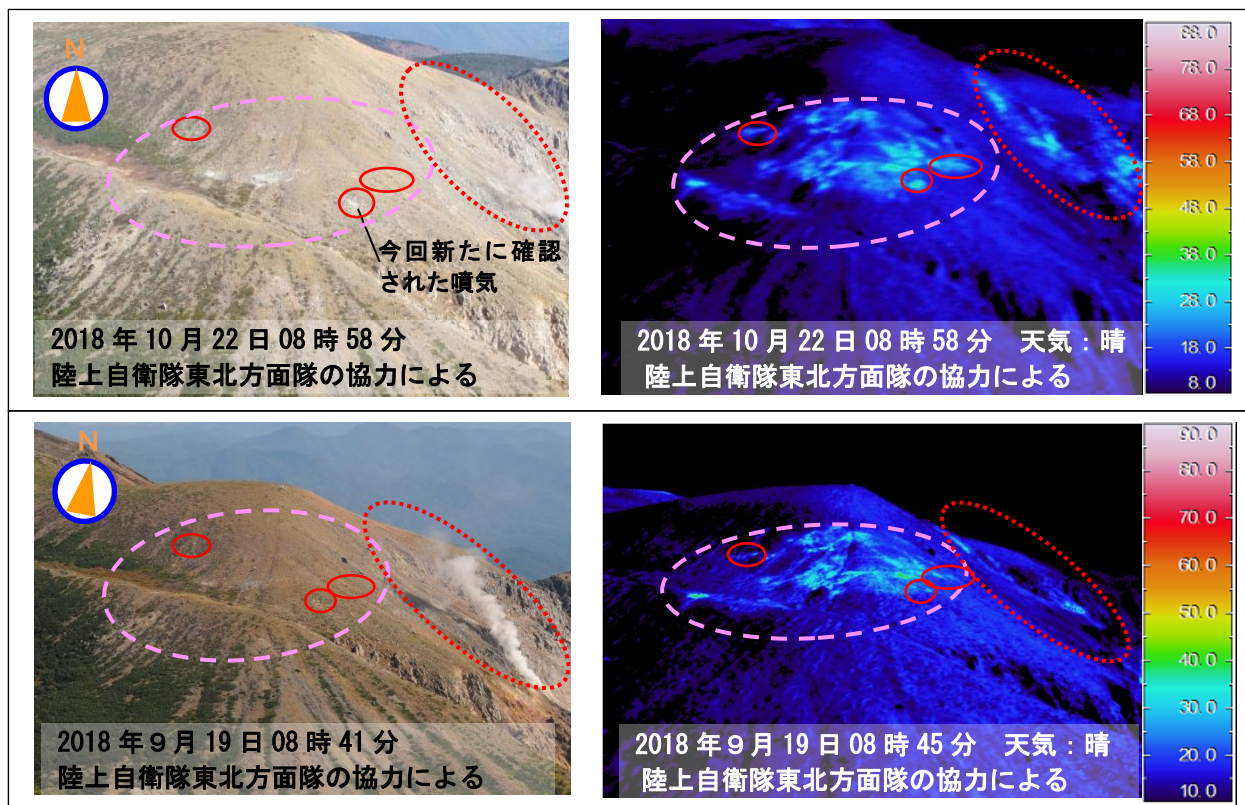


図 4 吾妻山 上空南側から撮影した大穴火口北西の状況と地表面温度分布

- ・ 前回（9 月 19 日）と比較して、大穴火口北西の地熱域に拡大（赤丸）が認められました。
- ・ 今回の観測で、大穴火口北西の地熱域で新たな噴気を観測しました。

※赤破線は大穴火口周辺の地熱域です。

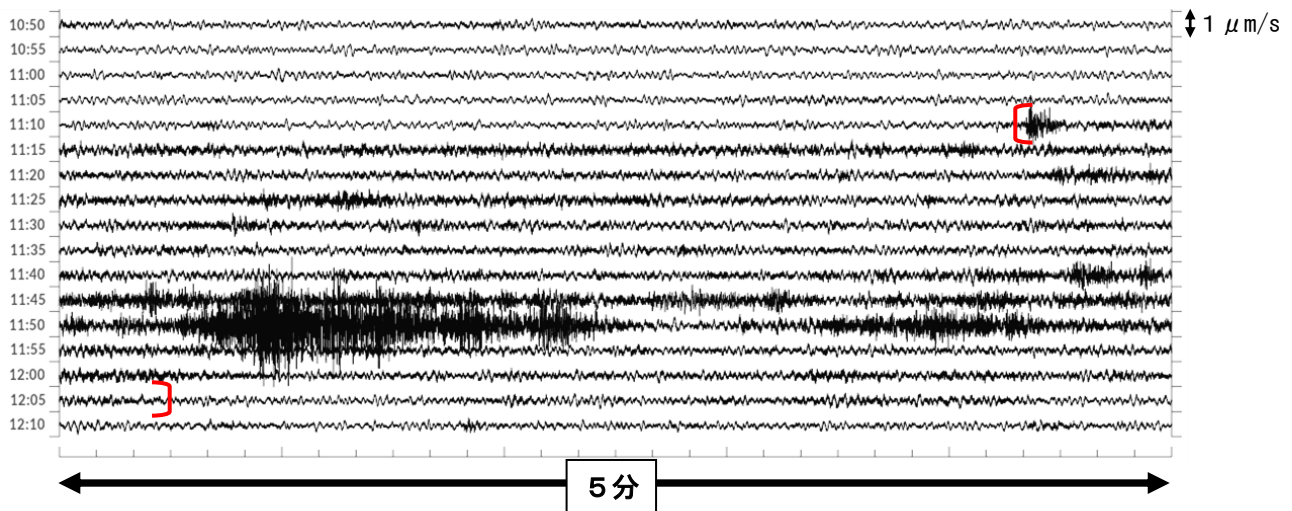


図5 吾妻山 吾妻小富士東観測点（上下成分）での火山性微動の発生状況
(2018 年 10 月 21 日 10 時 50 分～12 時 15 分)

- ・ [] は火山性微動の発生時を示します。最大振幅は $2.3 \mu\text{m/s}$ 、継続時間は約 51 分 10 秒です。



図6 吾妻山 火山性微動の発生状況 (2014 年 1 月～2018 年 10 月 21 日)

- ・ 10 月 21 日 11 時 14 分に火山性微動が発生しました。

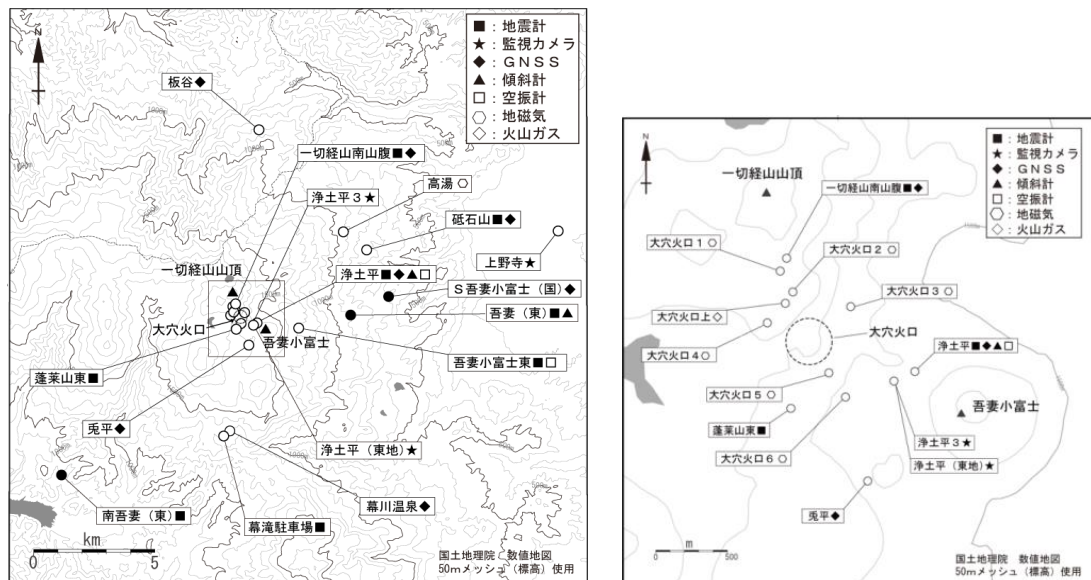


図7 吾妻山 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
左図の四角囲みは右図の表示範囲を示しています。

(東地) : 東北地方整備局 (国) : 国土地理院 (東) : 東北大学